

客観的評価で研修・認定制度を育てその質を保つ良識を

内山 充

当認証機構は、薬剤師の生涯研修として最新の知識と情報を伝達できる指導的研修プログラムや、特定の薬剤師実務領域での模範的実践法を示すことのできる計画的研修プログラムというような、新しい時代の薬剤師の自己研鑽に役立つ内容を持つ研修プログラムを提供するプロバイダーが、各地で生まれ、全国に広まることを願っている。

新しい研修プログラム計画は一種の起業努力であるから、梅原 猛氏が言うように、「自分の世界観、人生観、目的意識をしっかりと持ち、言ったこと、約束したことは必ず実行し、その結果に対して責任を持つことが必要」である。ところが「周囲を見回しながら他人を真似しておどおどしながら自分の行為を決め、しっかりと一人で生きているものを嫉妬し、中傷が理性の証拠のように思っているものが増えた」ことも事実である。

昔から、残念なことにわが国では、孤立して突出すると、周りが必ず足を引っ張って、突出者を自分たちのレベルにまで落とそうとする傾向が見られた。それにより、社会は和を尊び平和になるが進歩の無い愚者の楽園となるといわれる。薬剤師にとって欠くことのできない生涯研修の場では、このようなことは決して起こしてはならない。

当認証機構は、正しい意図をもって積極的に展開される研修・認定制度から申請があれば、客観的な立場でピアレビューにより評価を行ない、基準に適合すれば認証の対象とすることに協力を惜しまない。優れた研修プログラムの萌芽を削ぐようなことはしたくないからである。

一方、しっかりとした学会組織の裏づけも無く、何ら客観的な評価・認証も受けないまま、仲間内で安易に計画された研修や認定制度が乱立することで、将来、患者や他の医療職からの信頼を失うことは是非とも避けなければならない。質の保証に客観性を導入するという自律性が発揮できるか。薬剤師の持つ良識が試される時代が来たということができよう。